

編集・発行 社会福祉法人 八重瀬町社会福祉協議会
 (本所) 〒901-0401 八重瀬町字東風平 1318-1 TEL.098-998-4000 FAX.098-998-8999
 ホームページ: <http://www.yaeseshakyo.com/>

令和元年度ボランティア感謝の集いを開催しました

去る2月15日(土)に「令和元年度ボランティア感謝の集い」を開催しました。本集いは、町内におけるボランティアが一堂に会し、活動紹介をおこなうことで互いにボランティアの魅力や意義を共有し、さらなる活動の活性化を図るとともに、誰もが住みよい福祉のまちづくりを推進することを目的としております。本会では、平成18年度にボランティアフェスティバルを開催していますが、ボランティア当事者が交流を深めるのは初めてとなります。

当日は、ボランティア41団体232名の参加があり、「第一部ボランティア活動紹介」では、各団体にDVDや写真などを使って活動の紹介をしていただきました。

また、展示ブースには、写真や音訳機器などを展示し細かい報告ができました。

「第二部懇親会」では、落語家の南亭こったい氏を招き、うちなーぐち落語を鑑賞しました。その他にも、手話サークルフラワーハンドや手話ダンスサークルつわぶき会に手話ダンスを披露して頂き、とても有意義な集いとなりました。

日々、地域においてボランティア活動をされているボランティアの方々は、本会としても大変心強い存在です。今後もボランティアの皆様のご協力を頂きながら、地域福祉の推進に努めてまいります。



この「社協だより」は会費・寄付金・赤い羽根共同募金配分金等で作成されています。



沖縄尚学 野球部 地域に貢献 ～年末清掃ボランティア活動～



去る12月24日(火)に、沖縄尚学高等学校野球部による年末清掃ボランティア活動が行われました。今回は、6名の生徒・社会福祉協議会・地域包括支援センター職員で一人暮らし高齢者、二世帯の庭の清掃活動を実施しました。参加した生徒より「自分が生まれ育った地域の方の為に、ボランティアをすることができて良かった。」との感想がありました。また、比嘉公也監督も「12月～2月の間は対外試合ができないので、日頃から子ども達がお世話になっている地域へ、ボランティア活動を通して地域貢献できる生徒を育成していきたい。」との声があり、清掃を依頼した方も、丁寧に作業を行う生徒を見てとても喜んでいました。



世名城で「餅つき大会・黒糖づくり」が行われました。

去る1月5日(日)に世名城自治会(渡嘉敷真治区長)で「餅つき大会・黒糖づくり」が地域住民を対象に行われました。このイベントは本会で推進している社会的孤立対策モデル事業の一環として行われ、世代間交流を通して地域住民同士のコミュニケーションを深めることを目的として実施しました。

当日は地域住民約140名が参加し、世名城地域住民の方々から頂いた400kgのサトウキビを使用しサトウキビ搾りを体験し、子ども達は「目が回る!!」と言いながら夢中になっていました。

また、高齢者などは搾り汁を煮詰める途中で出来るねっとりとした黒糖(むちゃー)を食べ、懐かしさを感じていた方もいました。

最後は出来立ての黒糖と、きな粉や餡・大根おろし醤油を絡めたつきたてのお餅を「どれがおいしい?」など会話を楽しみながら食べました。参加者からは「初めての試みであったが地域の方と盛り上がり楽しめたので良かった」「子ども達と砂糖づくりが楽しめた」などのコメントがありました。



令和元年度「新城自治会防災避難訓練」を開催しました



アイマスク体験



避難場所シーサー公園にて



町赤十字奉仕団による炊き出し

去る1月18日(土)に、新城自治会・あらしろ保育園共催にて、区民・園児と保護者・島尻消防・糸満警察・町赤十字奉仕団の協力のもと「新城自治会防災避難訓練」を開催しました。

訓練には約260名の方が参加し、地域住民の防災意識の啓発や、災害時要援護者の見守り支援体制を推進し、災害にも強い地域づくりの大切さを学びました。

参加者のアンケートの声

- ・避難マップ、連絡網などがあればいいと思う。今回の避難経路の案内看板を常に立てかけてほしい。
- ・たくさんの団体に協力してもらい勉強になりました。子供と一緒にじゃないときに災害がおこることもあるので日頃から意識しておきたいと感じた。
- ・災害時、ゴミの処理も大変だから試食のごみもきれいに重ねて体積を減らすなどした方が良い。全体的には良かった。子供に気づきの機会になった。 など

事務局より

高齢者や災害時弱者に係る疑似(福祉)体験をしながら高台へ避難。視覚障害者のアイマスク体験をした参加者からは“周りの状況が把握できずとても不安だった”災害時には特に“不安を取り除くための配慮が必要”だと気づきが生まれました。このように、緊急時や災害時に地域で助け合うことができるよう地域の現状を把握し訓練に取り入れ、共有する場を提供していきたいと思えます。

令和元年度「宜次自治会防災体験会」の開催

去る2月9日(土)に宜次自治会共催にて、島尻消防・町赤十字奉仕団の協力のもと「宜次自治会防災体験会」を実施しました。大規模災害時に開設される避難所の多くは、地域住民が主体で運営されています。日頃から地域住民が共に助け合う地域づくりと、防災体験や防災訓練を通して地域全体で防災意識の向上を目指しました。

参加者のアンケートの声

- ・非常食は、あんまり味がないイメージだったけどだんだん良くなっていると感じた。
- ・各家庭で非常食を備蓄することが大事であり、可能であれば栄養面を考えた種類を備蓄しようと思いました。全種類おいしかったです。
- ・社協・消防の皆さんのわかりやすく丁寧な説明はとても良かったです。気持ちが伝わりました。今後も地元で開催していきたいと思えます。
- ・ごはんは、おばあちには硬かったみたいですが、ルーでやわらかくなるから食べれた。実際の時を想像する機会になり勉強になりました。

事務局より

防災に限らず、知識や情報も持っている役に立つ!少しでも宜次区民の防災に対する意識向上に繋がればと区長さんの想いを形に協力させていただきました。当日は、約50人のご参加をいただき一人一人体験できる内容となりました。ありがとうございました。



非常食の説明



水消火器訓練



応急手当講習会

地域見守り隊と連携

去る12月20日(金)に「八重瀬町地域見守り隊に関する協定書締結式」が開催され、新たに6事業所と協定書の締結を行いました。

同締結式は地域で見守りが必要な方の見守りを地域住民、民間事業所、福祉専門機関等八重瀬町の様々な団体が相互連携を行いネットワークの構築、展開することにより誰もが安心して暮らし続けられる地域づくりを推進することを目的に実施されています。

新たに見守り隊を締結した事業所

南部水道企業団、社会福祉法人憲寿会特別養護老人ホームときわ苑、社会福祉法人転生会特別養護老人ホーム転生園、社会福祉法人志紋福祉会障害者支援施設みなみの里、特定非営利活動法人サザンウィンド、生活協同組合コープおきなわ

南部水道企業団企業長仲榮眞弘氏は「毎月の検針作業や未納者への電話連絡のやり取りなどから異変を感じた際には速やかに報告し協力したい。些細なことでもちょっとした気づきが大事だと感じている」とコメントがありました。

後半には「地域見守り隊事業所連絡会」を開催し、平成28年度に締結を行った沖縄タイムス販売店、琉球新報販売店、沖縄ヤクルトの3事業所にも参加して頂きました。同連絡会では町社協が実施する社会的孤立対策モデル事業の説明や町地域包括支援センターが実施している認知症施策の取り組み、認知症高齢者等検索ネットワークについての説明を行いました。

参加者からは「地域の困り事への協力を企業としてかかわっていきたいと思います。」「地域おこしも含めて多くの見守り隊がいたらいいと思いました。」「活動を深めるために定期的な事例交流の場があった方がいいと思います。」という声を頂きました。



事務局より

本会では、地域の社会的孤立の防止・解消の取り組みに向けて、地域住民や行政・各種関係機関と連携を図りながら定期的に連絡会や情報交換会を実施し、「地域の人々が明るいネットワークを築き、支え合う地域社会」を目指して、地域福祉を推進してまいります。

第13回全国校区・小地域福祉活動サミット in さやま

～お茶の里 埼玉県狭山市～

去る1月25日(土)に行われた『第13回全国校区・小地域福祉活動サミット in さやま』にモデル地区支え合い委員、本会職員の15名が参加しました。

オープニングセッションでは「住民がつくる狭山の福祉」と題し、住民主体の活動をされている個人や団体が参加し、活動者の学びと交流促進をしている地域福祉活動推進研究会や、役所にある窓口として様々な相談を受けるトータルサポート推進室など、これまでの取り組みを紹介しました。オープニングセッションの後には、テーマに沿った具体的な取り組みとして、「多世代が集まる！喜びと生きがいあふれるお互い様の居場所」や「小地域における生活支援体制整備事業の取り組み」「地域で生きる～もう一度笑顔になりたい～(権利擁護関係)」など8分科会に分かれ、それぞれ実際に活動されている住民やボランティア、団体などの声や活動内容等を学ぶことができました。



参加者の声

- ・地域課題について市民の力で解決していく点で人材の発掘、育成の大切さを学びました。
- ・我々自治会においても、八幡地区等のように住民主体の事業を参加者全体で話し合いを持って活動方法等、検討する必要があると思いました。
- ・分科会での感動から、地域内全体を網羅した事業にするからには各字住民に社協主催で「地域支え合い事業」の説明会を希望します。

手話奉仕員養成講座受講生・修了生&手話サークル「フラワーハンド」

合同 Xmas 交流会を開催

去る12月26日（木）に「令和元年度手話奉仕員養成講座受講生・修了生&手話サークルフラワーハンド合同Xmas交流会」を開催しました。

本交流会は、一年間の手話学習活動を通して講座受講生とサークル会員のねざらいと親睦を深めることを目的に開催。当日は、手話奉仕員養成講座受講生・修了生、サークル会員等、全74名（大人35名、子供39名）の参加がありました。交流会では、手話サークルフラワーハンドによる「赤鼻のトナカイ」・「手で話そう運動テーマソング」の手話ソングと修了生による手話ダンス「乾杯」を披露して頂きました。また、子供たちの参加も多くあり、手話に触れ手話を学ぶ機会に繋がり、大変有意義な会となりました。



令和元年度手話奉仕員養成講座（入門編）閉講式 並びに交流会を開催しました。



去る1月21日（火）に「手話奉仕員養成講座（入門編）閉講式並びに交流会」を開催しました。本講座は、令和元年6月4日（火）～令和2年1月21日（火）までの全30回コースで開催され、閉講式当日は14名の受講生へ本会の金城榮幸会長より修了証を交付し、交流会では受講生による手話での1分間スピーチの披露と手話サークルフラワーハンド会員の聴覚障がい者との交流をおこないました。

修了した受講生からは「毎回楽しかったです。はじめは緊張しましたが、手話の楽しさを教えてもらってすごく充実した講座でした。」「実際に聴覚の方と交流することで教えてもらうことがたくさんありました。」などの声がありました。

今回入門編を修了した受講生は、令和2年6月開催予定の手話奉仕員養成講座（基礎編）を受講して頂き、八重瀬町の手話奉仕員として活動して頂けるよう期待しています。



～令和元年度集いの広場
「障害者カラオケ教室」の開催～



去る12月3日(火)～1月14日(火)全6回コースで町内在住の障害者を対象にした「カラオケ教室」を開催しました。講師は町内出身で演歌歌手・ラジオパーソナリティの三条ひとみ氏が務めました。

本教室は、発声訓練からリズム・音に合わせて歌うことを主に歌詞を覚えるのに必要な記憶力、脳や身体の活性化を図ることと、また、仲間と一堂に集いコミュニケーションを図り親睦を深めることを目的に開催しました。

毎回、テーマ曲を受講生全員で歌い、その後個別で歌を披露しました。講師は、一人一人の歌い方に対して、歌う姿勢・発声・発音・癖など細かく的確にアドバイスして頂きました。また、歌うことで一番大切なことは、「睡眠や体調管理、歌う前にストレッチをすること」だとお話しがありました。

全6回と短期間でしたが、回を重ねるごとに受講生全員が上達していくことを感じました。

受講生の声

「人前で歌うことに抵抗がなくなりました。」
「カラオケ教室に参加して演歌に興味を持つようになりました。」
「毎回、楽しい時間を過ごすことができました。」

～令和元年度集いの広場
「障害者パソコン教室」の開催～

去る1月9日(木)～2月20日(木)全6回パソコン教室を開催しました。講師は、2年前にもお世話になった有限会社c o m m i tの上里直輝氏が担当し、町内在住の障害者9名が受講しました。

本教室は、パソコンの基礎はもちろんのこと、更なるスキル向上やビジネスマナーを習得し就労の場を広げ、社会参加につなげることを目的に開催しました。内容は、マウスの使い方等の基本操作から始まり、ペイント、ローマ字入力や変換の仕方、文書の打ち込み等を行いました。また、今回から初めて視覚障害者向けの音声入力の操作方法も加わり、幅広く学ぶことが出来ました。

受講生は、数年ぶりにパソコンに触れる方、普段からパソコンを使い更にスキルアップを目指す方、音声入力をマスターしたい方など、一人一人が自分の目標を立てて毎回楽しみながら最後まで学ぶことが出来ました。



令和元年度「八重瀬町ファミリーサポートセンター
会員交流会・情報交換会」が開催されました。



去る1月19日にファミリー会員、サポート会員、どっちも会員を対象に令和元年度「八重瀬町ファミリーサポートセンター会員交流会・情報交換会」を八重瀬町社会福祉会館で開催しました。

当日の交流会では、もちつきや沖縄女子短期大学児童文化研究クラブの学生をお迎えし、手遊びや紙芝居、ダンス等を行いました。参加された会員の皆様からは、「もちつきがとても楽しかった。」「大学生の皆さんの取り組み姿がとても素敵で新鮮な気持ちで見ることが出来ました。参加して良かったです。」等の嬉しい声が多くありました。また、交流会後には、サポート会員・どっちも会員を対象に情報交換会を行い、日頃の活動の取り組みやファミリーサポートセンターに対する要望等を共有しました。

ファミリーサポートセンターとして会員の皆様の親睦と相互の連携がより一層図れるよう、今後も引き続き、交流会または情報交換会を実施していきたいと思います。参加していただきました会員の皆様ありがとうございました。





令和元年度 赤い羽根共同募金第3回チャリティゴルフ大会

「テーマ型募金：小地域福祉活動支援事業」

去る1月29日(水)に「令和元年度赤い羽根共同募金第3回チャリティゴルフ大会」を開催しました。本大会は様々な福祉ニーズに対し臨機応変に対応できる赤い羽根共同募金運動の趣旨を活かし、複雑化・多様化・深刻化している生活課題を中核的に推進する効果が期待できる小地域福祉活動の財源確保を目的に開催しました。趣旨に賛同いただきました皆様に心から感謝申し上げます。



内訳	金額	備考
参加費	384,000円	参加者 120名
寄付金	45,000円	4企業 1個人
寄付金	1,000円	ワンオン参加者(当日受付)
合計	430,000円	

令和元年度 歳末たすけあい運動募金実績



令和元年度歳末たすけあい運動を12月1日から実施しました。町民のみなさまからいただいた募金は、民生委員・児童委員、区長・自治会長を通じて支援を必要とする世帯が新たな年を迎える時期に、地域で安心して暮らすことができるよう配分され、地域福祉に活用されております。

戸別募金		★1,331,800円	
字・自治会名	実績額	字・自治会名	実績額
東風平	124,200円	外間	18,000円
伊覇	25,500円	友寄	62,700円
上田原	16,800円	第一団地	21,000円
屋宜原	44,400円	白川ハイツ	30,000円
富盛	93,000円	大倉ハイツ	18,300円
世名城	69,300円	屋宜原団地	32,400円
高良	19,200円	県営外間団地	15,000円
志多伯	60,900円	友寄東ハイツ	35,000円
当銘	33,600円	外間高層住宅	15,100円
小城	38,700円	県営屋宜原団地	15,000円
宜次	42,000円	県営伊覇団地	10,000円
		具志頭	93,600円
		新城	72,300円
		後原	71,400円
		大頓	18,600円
		玻名城	34,200円
		安里	48,900円
		与座	12,300円
		仲座	30,600円
		港川	55,800円
		長毛	30,000円
		県営長毛団地	15,000円
		県営大頓団地	9,000円

職域募金		★32,567円	
沖縄銀行	3,125円		
琉球銀行	2,942円		
八重瀬町社会福祉協議会職員	26,500円		

個人大口募金		★32,093円	
嘉数清春	20,000円		
匿名	10,000円		
匿名	2,093円		

その他		★5,000円	
八重瀬笑いヨガサークル	5,000円		

令和元年度 歳末たすけあい運動募金 ★実績額 1,401,460円

令和元年度歳末たすけあい運動募金実施事業

- 生活困窮世帯支援事業 (91世帯 244名)
 - 長期療養世帯支援事業 (7世帯 14名)
 - 在宅高齢者世帯支援事業 (20世帯 20名)
 - 知的障害・肢体不自由児(者)支援事業 (18世帯 44名)
 - 地域コミュニティネットワーク事業 (おせち配達)
 - 福祉活動支援事業 (母と子のクリスマス会)
 - 福祉活動支援事業 (ボランティア感謝の集い)
 - 障害児者支援事業 (歩行器購入) ……等
- ※今年度はこのように使われました。



八重瀬町共同募金委員会より

今年も支援を必要としている世帯が安心して新年を迎える事ができたと思います。町民の皆様心から感謝申し上げます。

この「社協だより」は会費・寄付金・赤い羽根共同募金配分金等で作成されています。

「第59回沖縄県身体障害者福祉展において 町出身者が書道の部で銅賞を受賞しました～」

去る1月22日(水)～25日(土)に「第59回沖縄県身体障害者福祉展」が恩納村博物館にて開催されました。町身体障害者福祉協会からは縫製部門に1名、書道部門に5名が出展し、数多くの出展作品の中から厳しい審査を経て、字小城出身の仲座初美氏が書道部門において銅賞を受賞しました。



また、去る1月23日(木)には、町身体障害者福祉協会主催で、「第59回身体障害者福祉展並びに施設見学」に会員と社協職員の全17名で行きました。会場には、縫製と書道部門の他に陶芸・工作・絵画・写真等の部門があり、作品一点一点に魅了されながら鑑賞を楽しみました。



評議員の紹介

八重瀬町社会福祉協議会の第7期評議員4名の交代がありました。退任された4名の評議員の皆様には、任期中大変お世話になりました。今後とも社協の事業運営につきまして更なるご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。
任期：令和2年1月28日～令和3年定時評議員会終結の時まで



喜友名美智子



長田 弘子



仲本 仁一



兼島 秀彰



寄 付

ご芳志誠にありがとうございます。この寄付金は、町内の福祉事業のため有効に活用させていただきます。紙面をかりて衷心より厚くお礼申し上げます。

令和元年12月13日～令和2年3月23日

月 日	寄付者氏名 (敬省略)	住 所	金 額	備 考
12月13日	知 念 サツ子	字伊覇	50,000	故夫 知念栄一様の香典返しとして
12月26日	神 谷 盛 幸	字志多伯	30,000	故妻 神谷八重子様の香典返しとして
1月16日	嘉 数 幸 進	字宜次	50,000	カジマヤー祝を記念して
1月20日	川 端 宣 昭	字富盛	50,000	故母 川端トミ様の香典返しとして
1月23日	安 室 教 子	字友寄	100,000	故夫 安室孝雄様の香典返しとして
2月12日	新 垣 浩 昭	字伊覇	50,000	故父 新垣浩様の香典返しとして
2月17日	久保田 秀 雄	字具志頭	50,000	故妻 久保田ミヨ様の香典返しとして
2月25日	有限会社大宮工機	南風原町	50,000	一般寄付として
3月9日	中 村 通 孝	字東風平	50,000	故娘 中村咲子様の香典返しとして
3月23日	翁 長 良 隆	字長毛	50,000	故母 翁長梅子様の香典返しとして
	合 計		530,000	

単位：円

この「社協だより」は会費・寄付金・赤い羽根共同募金配分金等で作成されています。